



特集

毛呂山消防団女性消防隊 197日の軌跡



～第21回 全国女性消防操法大会出場への道～

10月17日、横浜市消防訓練センターで行われた、第21回全国女性消防操法大会に埼玉県代表として出場した「毛呂山消防団女性消防隊」。しかし、隊員たちが操法の練習を始めたのは、およそ半年前のことでした。今回の特集では、操法のことをほとんど分からなかった隊員たちが、全国大会で4位になるまでの半年間を写真をとおして紹介します。

操法とは、「消防操法の基準」（昭和四十七年五月十一日消防庁告示第二号）によると「消防吏員及び消防団員の訓練における消防用機器の取扱い及び操作」のこととされています。つまり操法とは、火災現場などで、消防用の機器を安全かつ迅速に操作することで、消火活動などに寄与する行動のことを指します。操法大会は、その消防用機器の取扱いや操作の基本を競う大会のことであり、かつこの大会は、消防団員の技術の向上と士気の高揚を図ることを目的としています。

操法大会は、男性消防団員でも行われており、2年に1度全国大会が開催されています。男性消防団員の操法大会では、小型可搬ポンプの部とポンプ車の部で競われています。それに対して、女性消防の操法大会では、軽可搬ポンプの部で行われています。小型可搬ポンプと軽可搬ポンプの違いは、どちらも持ち運び可能なポンプではありますが、軽可搬ポンプの方が小型可搬ポンプより

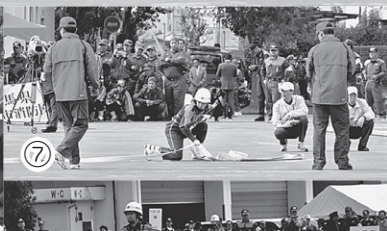
ホースが細いため、放水量はやや少なく設計されています。それゆえより扱いやすいという特徴があります。

全国女性消防操法大会は、47都道府県代表の女性消防隊が、操法の技術を競う大会です。この大会で実施される軽可搬ポンプ操法は、「士気、規律」、「迅速な行動、動作、チームワーク」、「確実な操作」、「消防用機器の精通とその愛護」、「各隊員の安全」などが競われます。いかなれば操法大会は、消防用機器をいかに迅速にかつ規律正しく取り扱えるのかということがポイントになる大会なのです。

採点は、操作始めの合図から標的を落とすまでのタイムと、規律正しく操作が行われていたかの2点から得点が付けられ、その点数が高い隊が表彰の対象になります。

この全国大会に埼玉県代表として出場した毛呂山消防団女性消防隊は、第4位という素晴らしい活躍を見せ、優秀賞に輝いたのです。

熱闘!! 操法大会



- ①本番前、団長からの激励
- ②応援席に掲げられた横断幕
- ③操法開始を待つ隊員
- ④操法の定位に付く隊員
- ⑤会場に立てられた毛呂山町女性消防隊への応援旗
- ⑥操法開始報告時の指揮者
- ⑦ホースを延長する1番員
- ⑧2番員のホース延長とともに走る指揮者
- ⑨火点に向かって走る3番員
- ⑩放水開始。見事標的を落とす
- ⑪4番員に放水止めの合図をおくる2番員
- ⑫操法終了
- ⑬歓喜の瞬間
- ⑭結果発表。好得点を獲得



毛呂山消防団女性消防隊 小川 貴美子 隊長

操法大会に出場するという話があった時は、とても驚きましたが、女性消防隊の存在を町民の皆さんに知っていただけるのらと思いい、出場をお願いしました。練習も後半になるにつれて選手たちも身体の痛みにも耐えながらの練習でしたが、仲間のためと歯を食いしばって頑張っていました。本当に選手たちはよくやってくれたと思います。

私たちが、このような大きな舞台に立つにあたり、本当にたくさんの人にご支援・ご指導・ご協力をいただきました。この場を借りて心から感謝の意を述べさせていただきます。

大会に向けて厳しい訓練を乗り越えてきた選手たちは、精神面も成長し、何よりチームワークの大切さを学ぶことができました。見事に結果を出した選手たちの姿を忘れずに、また新たな活動に向け、団員一同歩んでいきたいと思ひます。

操法大会出場の経験を糧に

実録!! 操法大会への道

【4月】

4日(木)

全国女性消防操法大会出場に向けて、初めての打ち合わせが消防署において行われた。この場に集まった女性消防隊員に対し、消防団長から大会出場の内容が告げられた。

13日(土)撮影

初めての練習が消防署で行われ、管理者から操法について説明が行われた。また、4月に任命された清水隊員がこの日から加わり、この日は終始、整列の練習をする。

清水隊員「以前から何かしらの形で地域に貢献したいと考えていたところ、消防団に誘っていただき入団しました。当初は、自分に勤まるか不安でしたが、多くの人の協力をいただき、やるからには頑張ろうという気持ちになりました。」



【5月】

18日(土)撮影

5月の連休明けに正式に選手が決定されてから3回目の練習日。軽可搬ポンプを使用しての練習を行うが、各自が動きをまだ理解していないため、消防署員からの指導を受けたり、ビデオを見て学んだり、手探り状態での練習であった。

石川隊員「団長から補助員として大会出場の依頼があったとき、これはいへんなことになったと思います。埼玉県代表として出るからには、自分のやるだけのことをやらなければとの思いでした。」



25日(土)撮影

この日から毛呂山消防団の各分団が交代で指導に入ることになる。練習では、それまで行っていた規律動作に加え、軽可搬ポンプの取扱いを含めた細かい動き

などを確認しながら練習を行う。各分団員も気付いた点を女性消防隊員に指導をした。



【6月】

23日(日)、29日(土)撮影

6月に入ると練習も本格的になり、頭にはヘルメット、足には脚絆きんぱんを付けての練習となる。内容も実際にホースを延長して行うようになった。また6月からは平日のナイター練習も加わり、週3日の練習となった。



【7月】

24日(水)、27日(土)撮影

この月から放水まで行われるようになり、操法の最初から最後まで通して練習を

行うようになった。このころになると選手の意識もだんだん変わってきて、各自がそれぞれの課題と向き合うようになっていった。

菊池隊員「7月に入り、取りあえず全体の流れを経験してみたくて、水を出すまでの一連の流れをさせてもらいました。おかげで、全体の流れを把握したうえで練習が行えるようになり、それからの練習は全て楽しくできました。」

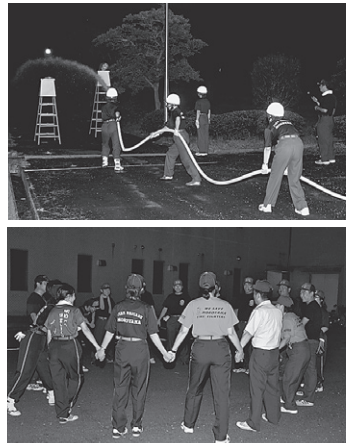


【8月】

11日(日)、31日(土)撮影

8月からは、練習会場を毛呂山処理センター(毛呂山・越生・鳩山公共下水道組合)に移して練習するようになった。広い場所で選手たちも思い切り走れるようになったが、タイムが思うように縮まらず苦しんでいた。今年の夏は、非常に暑かったため、選手たちには辛い時期であった。また、練習の積み重ねで選手の絆きずなが深まり、団結力が高まっていったようでもあった。

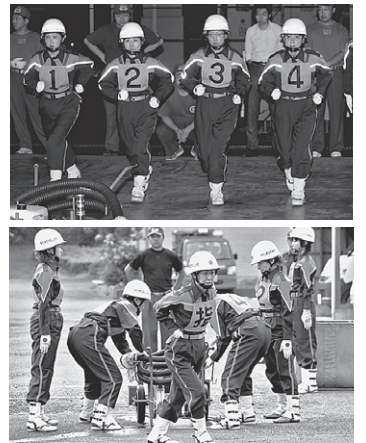
士屋隊員「仕事・家庭・練習を完全にこなすことは難しく、日を重ねるごとに疲労が蓄積していききました。でも、全体の士気が高かったため、モチベーションを良い状態で維持できたのではないかと思います。」



【9月】

15日(日)、22日(日)撮影 9月には、大会本番で使用する活動服が支給され、本番さながらのスタイルで練習を始めた。また9月第3週からは、平日の練習日を増やし、週4日の練習となる。各隊員が、各々の行動を把握したことで、それぞれの動作を掴み始めたのもこのころからだった。

市川隊員「さすがに週4日の練習になると、練習中心の日々になりました。手回らなくなっていました。子どもたちにも寂しい思いをさせてしまいました。協力してくれた家族には、本当に感謝しています。」



29日(日)撮影

前回大会出場の熊谷市女性消防隊が応援に駆けつけられた。それぞれの隊員が個人指導という形で細かなアドバイスももらったことで、隊員一人ひとりが、また一歩成長したようにみられた。



【10月】

6日(日)撮影 町民レクリエーション大会において操法のデモンストラクションを行う。



8日(火)撮影 全国大会出場に向け、上田埼玉県知事を表敬訪問する。



8日(火)、10日(木)撮影 本番間近。各隊員がそれぞれの動きの最終チェックに入る。この時期、タイムとの闘いになる。しかし、各隊員とも膝や腰に痛みを訴えながらの練習であった。

有山隊員「なかなかタイムが縮まらず、常に弱気になる自分と闘っていました。そんななか仲間からの

「大丈夫！独りじゃないよ」という言葉が強く心に響いて、力になりました。いつも明るく支えてくれた仲間感謝です。」



12日(土)、13日(日)、14日(祝)撮影 最終調整。各隊員ともひとつひとつの動きを確認しながらの、丁寧な調整を行う。またその反面、目標タイムを出せるまで何度も繰り返し練習をする。最後は、「やるだけのことやった」といった空気のなか練習が締めくくられる。あとは気力の勝負である。自分のやってきたことを信じ、それぞれの決意を胸に、大会に臨む。



操法大会へ参加しての女性消防隊員の声



2番員
有山 志のぶ 隊員

「タイム=2番員次第」という重圧に負けそうになったとき、たくさんの方がたに支えていただき、立ち向かうことができました。大会当日は、皆さんの声援が何より心強く感じられました。この半年間は一生の宝物です。



1番員
清水 美香 隊員

1番員として、走る歩数に思い悩み、標的を落とすプレッシャーもありましたが、本番はいいイメージで臨めました。半年間、一緒に訓練を共にした選手が心ひとつになり、最高のパフォーマンスができたと思います。皆さんに深く感謝申し上げます。



指揮者
市川 美由紀 隊員

今回一番に感じたことは、本当にたくさんの方がたの協力があったということです。私たちの練習に付き合っていた方がたをはじめ、陰で支えてくれた家族や大勢の人たちに感謝したいと思います。とても充実した半年間でした。



補助員
石川 希望 隊員

全国大会への出場を通じて、仲間同士の絆がとても深まりました。優秀賞をいただいたのは、私たちの力だけでなく、多くの人たちの支えがあったからです。各分団・消防署の皆さま、職場の同僚、そして応援してくれた家族に心より感謝します。



4番員
土屋 洋子 隊員

春から練習を開始し、暑い夏を乗り越え、選手一丸となり一生懸命練習に励みました。大会間近の苦しい時期の挫折を乗り越え、いっそう絆が強くなった結果でもあると思います。ご声援くださいました多くの方がたに心よりお礼申し上げます。



3番員
菊池 知美 隊員

入賞できたことは、本当に嬉しいです。しかし、それ以上にここまで選手誰一人と欠けることなく終わられたという安堵感に今は満ちています。この半年間、私たちを支え、応援してくださいました皆さん、本当にありがとうございました。



本橋 香織 隊員
全国大会の空気を肌で感じる事ができ、とても感動的な一日になりました。



藤田 朋美 隊員
選手の皆さんが流した涙を私はきっと忘れないと思います。ありがとうございました。



佐藤 仁美 隊員
積み重ねが力になり、そして結果に繋がることを実感できた半年でした。



梅津 美甫 隊員
ゼロから始め、日々の練習を重ね勝ち取った銅メダル。努力と団結力に感動しました。



荒木かおる 隊員
半年間、様々なプレッシャーに負けず選手たちは、よく頑張ってくれました。

今回、女性消防隊が全国女性消防操法大会に出場したことで、はつきりしたことが一つあります。それは、大会を振り返って隊員たちが口にしていた「感謝」ということです。練習に携わってくれた人、応援してくれた人、そして何より家族。多くの人の協力や理解なくしては、この大会へ出場することもできなかったでしょう。支えてくれた人たちに对する「感謝」。大会に出場したことで、隊員たちは、改めて大切なことに気付かされたのではないのでしょうか。

多くの人たちの理解や協力がなくては実現しなかった今回の大会。実は、消防団の活動自体がたくさんの人たちの協力で支えられているのです。消防団は、地域の安全と安心を支えてくれる組織ですが、消防団が地域のために働くのになくてはならないのが、地域の皆さんの協力です。私たちがこれからも安心・安全に暮らしていくために今後消防団の活動に、ご理解と協力をお願いします。



操法大会への出場をとおして

操法大会への出場は、昨年の夏ごろに決定しました。当時はまだ、女性消防隊員が5人しかいなかったのですが、隊員の希望もあり、手を上げました。操法大会に出場することは、団員の団結心を養うことに繋がります。選手たちはこの半年間本当によく練習に頑張ってくれました。

これからの災害時には、女性の力は欠かせないものになると思います。実際の火災現場の後方支援のほか、予防活動などその責務は多岐にわたると考えます。今後のためにもこの大会への出場は、とても有意義なものになったと思います。

「操法とは？」から始まった半年間。選手のみならず隊員全員に「ご苦労さま」と言いたいです。優秀賞という結果を得られたことは、日々の努力と多くの皆さまの協力あつてのことです。それを忘れずに今後の活動に臨んでもらいたいと思います。



毛呂山消防団
青柳 章 団長